

平成19年5月14日

平成19年3月期 決算の概要について

シロキ工業株式会社
(輸送用機器 東証、名証第1部上場)
(*百万円未満以下切り捨てております)

1、平成19年3月期連結決算の概要

3月31日現在の当社の連結対象子会社は国内5社、海外6社の計11社で、他に国内に持分法適用の関連会社が3社であります。前期比で連結対象子会社が国内で1社、海外で1社それぞれ増加いたしました。これは、国内でシロキ商事株式会社が昨年7月に会社分割を行い「シロキクリエイトサービス株式会社」を新設し、海外では昨年6月に「シロキGT LLC」(米国)を新設したためであります。なお、米国のSWMマニュファクチャリング株式会社、SWMジョージアLLC、SWM-GT LLCは本年1月1日より「シロキノースアメリカ株式会社」「シロキGA LLC」「シロキGT LLC」に社名を変更しております。

売 上

[5期連続で過去最高の売上。日本、米国、アジアの全地域でも過去最高]

当期の連結売上高につきましては、前期比8.5%増の1,335億9百万円で105億6百万円の増収となり、5期連続で過去最高を更新いたしました。これは、得意先自動車メーカーの日本・米国・アジアなど国内外での生産増加に加え、モーターとECU(電子制御装置)を一体化した新型ウインドレギュレータなどの新規開発品の受注増加や、中国での生産体制整備による生産増加などによるもので、日本・米国・アジアの全地域で順調に売上が伸び、特にアジアでは前期比2.01倍増と大幅に売上を伸ばしました。また、主力のシロキ工業が前期比6.2%増の1,009億2千8百万円となり、初の1,000億円の大台にのせることができました。

得意先別では、主力のトヨタグループ向けが好調に推移し、前期比11.2%増の917億6千2百万円で、92億4千万円増加いたしました。製品別では、新機構・新機能を採用したシート部品や新型ウインドレギュレータなどの新製品効果によってシートリクライナ・シートアジャスタが前期比15.5%増、ウインドレギュレータも前期比9.8%増と好調に増加いたしました。

連結決算概要

(上段当期、下段前期)
売上高：
1,335億9百万円
1,230億3百万円
(前期比8.5%増)
営業利益：
31億8千2百万円
20億1千9百万円
(前期比57.6%増)
経常利益：
31億8千9百万円
29億8千4百万円
(前期比6.9%増)
当期純利益：
16億1千2百万円
12億2千1百万円
(前期比32.0%増)
1株当たり当期純利益：
18円17銭
13円34銭
海外売上高比率：
24.9%
23.6%
設備投資：
73億7千1百万円
69億2千万円
(前期比6.5%増)
減価償却費：
55億4千9百万円
55億7千6百万円
(前期比0.5%減)

これらの結果は、当社が世界4極市場対応を視野にグローバル生産・供給体制を整備し、受注拡大に努めたことや、高付加価値と競争力強化をはかった新製品開発の成果が徐々に現れてきたためであります。

平成18年10月31日の中間決算発表時の1,300億円の予想に対して2.7%増の35億9百万円の増収であります。

国内売上

国内につきましては、主力のシロキ工業が前期比6.2%増の1,009億2千8百万円で58億7千8百万円の増収となり、過去最高の売上を記録するとともに、単独では初めて1,000億円の大台にのることができました。これは、得意先自動車メーカーの輸出好調に伴う生産増とともに、「まったくモード機構付シート」や新型ウインドレギュレータなどの新規開発品の受注増加や、当社製品の装着率の高い車種の生産増加、加えて量産車種である新型「カローラ」の新規立ち上げに伴う新車効果などが寄与したものであります。得意先別では、トヨタグループ向けが好調に推移し、前期比9.4%増の628億6千6百万円で53億9千4百万円増加いたしました。

海外売上

米国につきましては、米国生産拠点のシロキノースアメリカ(テネシー州)が、前期比5.9%増の270億2千万円で、14億9千8百万円の増収となり、5期連続で過去最高を更新いたしました。これは、昨年秋より新規生産を開始した現地日産自動車の量産車種「アルテイマ」向けドアサッシが好調に生産を拡大したことなどによるものであります

アジアにつきましては、中国の広州白木自動車零部件(広州市)が大きく伸び、前期比4.97倍増の23億2千4百万円で18億5千6百万円の増収となりました。これは現地トヨタ自動車の「カムリ」向け新規生産開始による生産増が貢献したものであります。タイではシロキタイランド(チョンブリ県)が、前期比39.9%増の32億7千9百万円で9億3千4百万円の増収となりました。これは、現地トヨタ自動車の国際戦略車「IMV」の好調な販売に

地域別売上高

(上段当期、下段前期)

・日本	1,009億3千4百万円 948億3千6百万円 (前期比6.4%増)
・米国	270億3百万円 253億9千9百万円 (前期比6.3%増)
・アジア	55億7千1百万円 27億6千7百万円 (前期比2.01倍増)
・合計	1,335億9百万円 1,230億3百万円 (前期比8.5%増)

得意先別売上高

(上段当期、下段前期)

・トヨタG	(68.7%) 917億6千2百万円 825億2千1百万円 (11.2%増)
・売上高上位(自動車メーカー)	
トヨタ自動車	(38.3%) 511億7千5百万円 472億9千8百万円 (8.2%増)
スズキ	(8.0%) 106億4千9百万円 107億7千1百万円 (1.1%減)
日産自動車	(5.2%) 70億2千6百万円 73億4千万円 (4.3%減)

* 社名横の()内は売上構成比率

主要製品別売上高

(上段当期、下段前期)

シートクライナ・ シートアジャスタ	(38.4%) 512億1千4百万円 443億5千7百万円 (15.5%増)
ウインドレギュレータ	(29.1%) 388億7千1百万円 353億8千6百万円 (9.8%増)
ドアサッシ	(16.8%) 224億1千1百万円 215億2千1百万円 (4.1%増)

* 製品名横の()内は
売上構成比率

伴う生産拡大が寄与したものであります。また、昨年6月より新たな主力製品としてドアサッシを現地企業への委託生産により、現地日産自動車に納入を開始いたしました

利益

〔営業利益が前期比57.6%増〕

営業利益は、売上増加による増益効果に加え、徹底した原価低減活動による合理化効果などにより、新規立ち上げ費用増などを吸収し、前期比57.6%増の31億8千2百万円で11億6千2百万円の増益となりました。これは主として国内の増収効果とアジアにおける収益改善などが寄与したもので、アジアの収益好転の要因は中国・広州白木汽車零件の「カムリ」向け生産が順調に拡大するなど生産体制が整い、操業2年目で黒字転換したほか、タイのシロキタイランドが引き続き「IMV」向け増産により好調に推移したからであります。

経常利益は、為替差益の減少と支払い利息の増加により前期比6.9%増の31億8千9百万円増で2億5百万円の増益と増益幅が減少いたしました。当期純利益では、減損損失や子会社整理損などの特別損失の減少により、前期比32.0%増の16億1千2百万円で3億9千1百万円の増益と改善いたしました。

2、平成19年3月期の主な取り組み

〔グローバル生産・供給体制の確立を加速〕

当社グループは、昨年創立60周年の節目を迎え、経営理念・経営方針を11月に刷新し、更なる成長への進むべき道を示すとともに、グローバル展開に伴うシロキブランドの一層の向上をはかるため、本年1月北米3社についても「シロキ」を使用した社名に変更いたしました。また、高機能・高品質・低コストに加え、海外対応できる「世界No.1の魅力ある製品づくり」に取り組むとともに、北米・中国・タイを中心としたグローバル生産・供給体制の確立を加速してまいりました。

実施した主な取り組みは次の通りであります

主要会社別売上高

(上段当期、下段前期)

シロキ工業

1,009億2千8百万円

950億5千万円

(前期比6.2%増)

シロキノースアメリカ

270億2千万円

255億2千2百万円

(前期比5.9%増)

広州白木汽車零部件

23億2千4百万円

4億6千8百万円

(前期比4.97倍増)

シロキタイランド

32億7千9百万円

23億4千5百万円

(前期比39.9%増)

セグメント別営業利益

(上段当期、下段前期)

・日本

23億7千6百万円

19億9千5百万円

(前期比19.1%増)

・米国

3百万円

1億4千1百万円

(前期比 -)

・アジア

4億8百万円

1億5千6百万円

(前期比 -)

・消去又は全社

3億9千4百万円

3億2千2百万円

(前期比22.4%増)

・合計

31億8千2百万円

20億1千9百万円

(前期比57.6%増)

新製品

新型ウインドレギュレータのグローバル化加速

- ・中国「カムリ」向け生産開始 (昨年5月)
- 「ヒドンタイプ」のドアサッシのグローバル化
- ・中国「カムリ」向け生産開始 (昨年5月)

国内事業強化

シロキ商事の会社分割 (昨年7月)

- ・シロキクリエイティブサービス新設
- ・グループ経営の効率化推進

九州シロキ第2工場本格稼働に向け生産準備開始

- ・本年5月本格操業開始。九州地区得意先の生産拡大に対応

グローバル展開の加速

米 国

シロキGAの工場拡張 (昨年12月)

北米第3生産拠点操業開始 (シロキGT)(本年3月)

- ・現地日系自動車メーカーの生産拡大に対応

現地日産自動車の量産車種「アルティマ」向け

ドアサッシ生産開始 (昨年9月)

中 国

広州白木自動車零部件の生産拡大

- ・広州トヨタ自動車向け生産開始 (昨年5月)
- 広州白木自動車零部件第2工場建設着手 (昨年11月)
- ・現地日系自動車メーカーの生産拡大に対応

タ イ

シロキタイランドがドアサッシの新規生産 (昨年6月)

- ・現地日産自動車向け納入開始、ASEAN地区での生産強化

3、平成20年3月期連結業績予想について

売 上

[6期連続過去最高の売上。米国・アジア堅調、

国内横ばい]

今期の連結の業績予想につきましては、売上高は通期で前期比2.6%増の1,370億円で34億9千1百万円

個別決算概要

(上段当期、下段前期)

売上高：

1,009億2千8百万円
950億5千万円

(前期比6.2%増)

営業利益：

21億3千7百万円

17億1千4百万円

(前期比24.7%増)

経常利益：

27億9千万円

30億5千6百万円

(前期比8.7%減)

当期純利益：

10億3千1百万円

6億3千7百万円

(前期比 -)

設備投資：

33億2千3百万円

43億2千2百万円

(前期比23.1%減)

減価償却費：

45億5千3百万円

47億4千5百万円

(前期比4.0%減)

の増収で、6期連続での過去最高の売上高更新を予想しております。これは、国内はほぼ横ばいを予測するものの、米国・アジアは順調に増加するものと見込んでいるからであります。

国内売上

今期の国内自動車総需要は減少が見込まれ、加えて輸出の伸びも海外現地生産の加速により鈍化するものと予想されます。このため主力のシロキ工業の通期売上高はほぼ横ばいの前期比0.8%減の1,001億円で8億2千8百万円の減収を予想しております。

海外売上

米国では、好調な日本車人気を背景に現地得意先自動車メーカーの生産増に伴い、シロキノースアメリカの通期売上高は前期比6.2%増の287億円で17億2千万円の増収を見込んでおります。

アジアでは、中国の広州白木自動車部品が現地得意先自動車メーカーの生産増に伴い、通期売上高を前期比85.0%増の43億円で19億7千6百万円の増収と大幅に増加するものと見込んでおります。一方、タイのシロキタイランドの通期売上高はほぼ横ばいの前期比2.4%減の32億円で7千9百万円の減収を見込んでおります。

利益

〔減価償却方法変更に伴う費用増などで減収〕

利益につきましては、引き続き増収効果や海外子会社における収益貢献が見込まれますが、新製品開発費用の増加や、税制改革による減価償却方法の変更に伴う費用負担増8億円などもあり、通期営業利益は前期比15.1%減の27億円で4億8千2百万円減の減益を予想しております。また、通期経常利益は前期比27.9%減の23億円で8億8千9百万円の減益、当期純利益は13.2%減の14億円で2億1千2百万円の減益を予想しております。

当社グループといたしましては、今後利益構造の再構築に大胆に取り組んでまいります。

製品構成のあり方を見直し、従来の機械部品に加え、電子部品に対応した高付加価値化と国際競争力のあるメカトロニクス部品（機械部品と電子部品を統合した部品）

平成20年3月期連結予想

（上段予想、下段前期実績）

売上高：

1,370億円

1,335億9百万円

（前期比2.6%増）

営業利益：

27億円

31億8千2百万円

（前期比15.1%減）

経常利益：

23億円

31億8千9百万円

（前期比27.9%減）

当期純利益：

14億円

16億1千2百万円

（前期比13.2%減）

1株当たり当期純利益：

15円78銭

18円17銭

海外売上高比率：

27.1%

24.9%

設備投資：

63億9千3百万円

73億7千1百万円

（前期比13.3%減）

減価償却費：

61億2百万円

55億4千9百万円

（前期比1.0%増）

会社別売上高予想

（上段予想、下段前期実績）

シロキ工業

1,001億円

1,009億2千8百万円

（前期比0.8%減）

シロキノースアメリカ

287億円

270億2千万円

（前期比6.2%増）

広州白木自動車部品

43億円

23億2千4百万円

（前期比85.0%増）

シロキタイランド

32億円

32億7千9百万円

（前期比2.4%減）

やシステム部品などの新製品開発を強化してまいります。
グローバルな視点から国内生産体制を見直し、生産の高効率化をはかったシャープでスリムな生産体制を構築すべく、生産品目の内外製の見直しと生産拠点の再編を進めてまいります。

当社グループにおきましては、本年は“次の70周年”に向けて新たな成長戦略を展開する重要なスタートの年となります。当社グループとしましては、グローバルサプライヤーとして心を新たにして、“新しい10年”に向けて、総力をあげて世界競争に勝ち抜いてまいり所存でございます。

以上

セグメント別営業利益予想

(上段当期予想、 下段前期実績)	
・日本	<u>8億5千万円</u> 23億7千6百万円 (前期比64.2%減)
・米国	<u>8億5千万円</u> 3百万円 (前期比283.3倍増)
・アジア	<u>7億5千万円</u> 4億8百万円 (前期比83.8%増)
・消去又は全社	<u>2億5千万円</u> 3億9千4百万円 (前期比36.5%減)
・合計	<u>27億円</u> 31億8千2百万円 (前期比15.1%減)

平成20年3月期個別予想

(上段予想、下段前期実績)	
売上高:	<u>1,001億円</u> 1,009億2千8百万円 (前期比0.8%減)
営業利益:	<u>5億円</u> 21億3千7百万円 (前期比76.6%減)
経常利益:	<u>11億円</u> 27億9千万円 (前期比60.6%減)
当期純利益:	<u>9億円</u> 10億3千1百万円 (前期比12.7%減)
設備投資:	<u>45億4千2百万円</u> 33億2千3百万円 (前期比36.7%増)
減価償却費:	<u>47億4千1百万円</u> 45億5千3百万円 (前期比4.1%増)

この件のお問い合わせは:

シロキ工業株式会社(0533)84-4691

取締役経理部長

大石

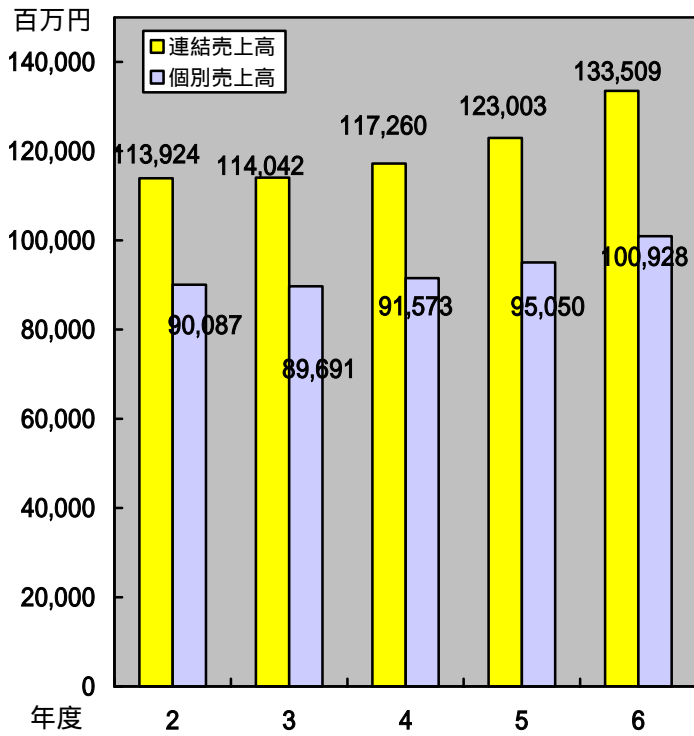
総務部広報担当

眞野 まで

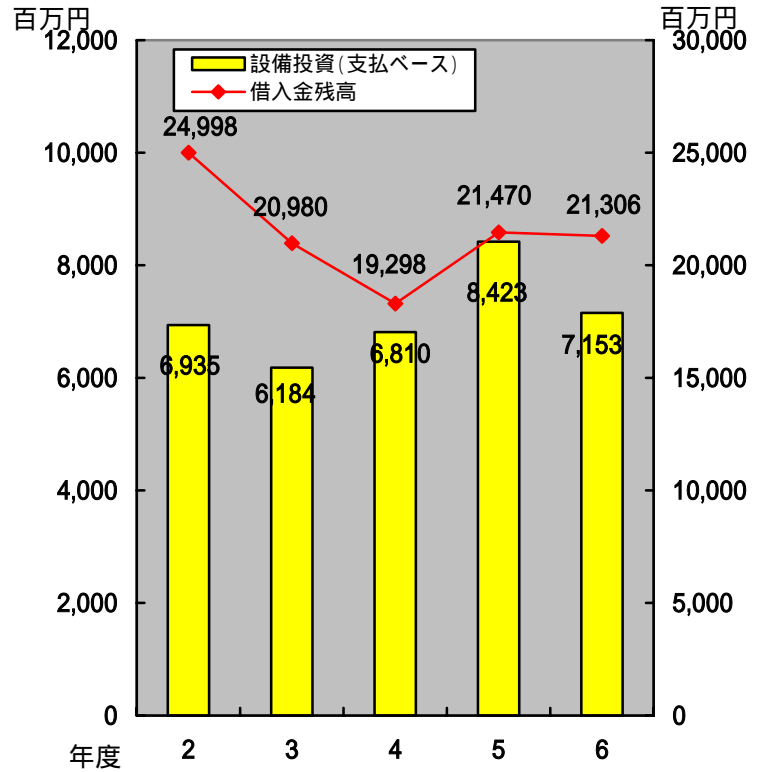
業績推移

シロキ工業株式会社

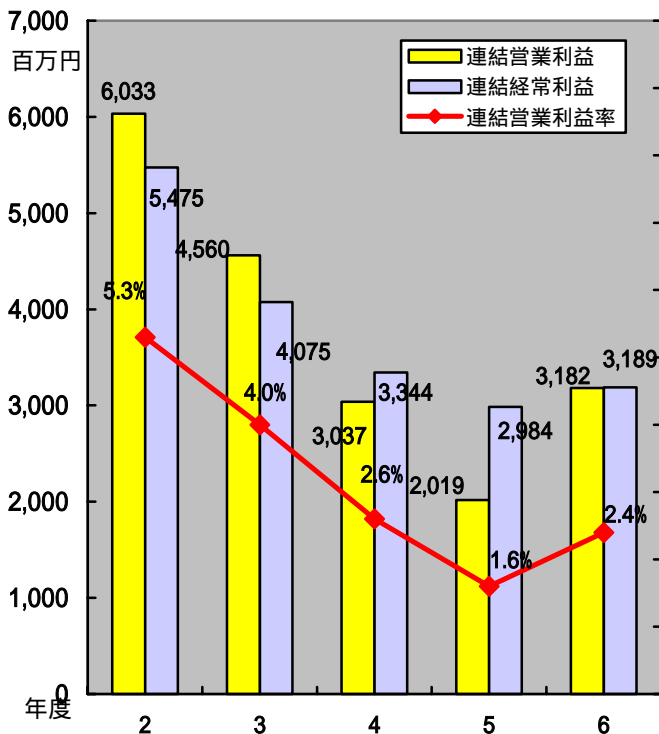
連結・個別売上高推移



連結設備投資・借入金残高推移



連結利益推移



個別利益推移

